

## 目標達成計画

作成日: 令和2年2月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |  |  |   |            |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題   | 目標   | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容  | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 38   | 入居者の生活の中で、その人らしい暮らしを支援するために、その人の「今」を理解し、ペースを十分考えて支援することが望ましいことは理解出来ているが、実践に至っていないケアや声掛けが見受けられる。いわゆる業務優先になりがちである。 | ご本人のペースに合わせることは、一人ひとりの出来る事、出来ないことをチームで共有した関わりを持つ。また、ケアする側の優先ではなく、「聴いて」希望を察したケアに繋げる。    | ①ケアをする前にご本人の意思確認の声掛けを行うと共に、顔を見て表情を確認する。<br>②出来ないと思ひ込むのではなく、どうしたら出来るのか？心を動かすコミュニケーション力をチームで共有することでケアの統一を図っていく。 | 12ヶ月       |
| 2        | 49   | 日常的な外出支援が、ADL低下や加齢、認知症の進行で困難と感じている。しかし、外出の機会にホームで見れない笑顔を見出すことで、喜びを感じる。その喜びを職員が共に感じ、何らかのアクションを小さくても起こすスキルを持つ。     | 身体機能を考慮した移動手段を考慮し、ご家族への協力依頼も行い、買い物同伴や近場の馴染みの地域、想いで場所に出向くことで環境変化による入居者の表情を表出出来る支援に取り組む。 | ①ADL低下、意欲の低下をその人の意思と思わず馴染みの場所や墓参り、お寺行きなど家族の協力を依頼し実践する。 ②近場の買い物同伴等出来る可能性から実践。 ③馴染みの場所はその人の大事な環境であると研修や実践で学ぶ    | 24ヶ月       |
| 3        | 13   | 研修会の開催、参加は積極的に行われているが学びが実践出来ていないことも見受けられる。職場環境を変えることは多少困難を感じる。学びを何らかの形で実践し共有するチームに至っていない。学びを共有する場を法人自体が持つことが大事。  | 学びを深める知識は大事であるが、ケア実践やチームへの共有を務め「実践」出来る職員が増えて、スキル向上を図る。                                 | ①研修参加後の報告、学びを伝える場をつくる。 ②実践して、チームと共有し「お互い学び合う」職場風土を構築。(助け合うチーム力を高めていく)   | 12ヶ月       |
| 4        | 39   | 重度化していく中で、身だしなみは重要なケアと思われるが、臥床時間が長いことで、おしゃれを考えた関わりが少なくなっている。洗面後の整容も怠りがちな関わりがある。                                  | 活動が少なくなっていることで、おしゃれは大切な生活の一部であると意識を高めた関わりが出来る。選ぶことも促し、重度化しても香を味わう環境の継続に努める。            | ①起床後の洗面だけでなく、化粧水やクリームなどで朝と いう感覚を持ってもらう。<br>②髪の毛の乱れは常に意識して整える。<br>③寝たきりでもアロマオイルでのマッサージやマニキュア等での気分転換を継続していく。    | 6ヶ月        |
| 5        |      |  |  |   | ヶ月         |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。